

事務局対応案
1. 素案修正
2. 素案どおり
3. その他

項目	番号	委員発言内容	事務局対応案	修正案及び修正をしない理由等	ページ	担当部	
1 田園型政令市にふさわしいまちの姿	1	現状と課題 については、施策につながるような書き込みを。また、表現についての統一を。「～だから、～が必要である。」	3	全体に統一を取るよう検討する。	71	企画部	
	2	1つめ：広域合併により、市域が広がっただけではなく、人口も増えた記載が必要である。	1	"市域が広がり、人口約81万人を擁する大都市となりました。"と言う表現に修正する。	71	都市計画部	
	3	7つめ：公園面積だけ数値が入っているのは唐突で、統一したほうがよい。	2	市民一人当たり公園面積は、公園の整備状況を表し、他都市との比較にも有効な指標であると共に、市民からの関心も常に高い指標であることから、素案どおり記載したい。	71	土木部	
	(1) 都市化社会から都市型社会へ	4	「都市化社会から都市型社会へ」は、市民にはわからない。	1	都市化社会は拡大型社会で、都市型社会は成熟をイメージしたが、わかりやすいように修正する。	73	都市計画部
		5	無秩序な都市の形成は正さなければならないが、「市街地拡大のコントロール」は理解できない。	3	既存市街地内での低未利用地の再生の方が先であるということを含んでいるものであり、全てをコントロールするということではないが、表現等について検討する。	73	都市計画部
	(2) 田園の保全と自然に配慮した整備	6	定年帰農システムの整備を入れて欲しい。	2	P84 新規就農者の確保・多様な就農の推進 に記載。	74	農林水産部
		7	“自然環境の保全を優先し、...”などの文言を入れて欲しい。	2	小項目に「自然に配慮した整備」の文言を記載しているため、修正しない。	74	農林水産部
		8	「田園」の定義をはっきりさせたい。美田なのか、都市と対比しての総称としての「田園」なのか。	3	「田園」については、「都市」と対比して、農地・集落を含めた総称として使用している。	74	農林水産部 企画部
	農業団体等の施設維持活動への支援	9	“除草剤を使わない～”とP82 “化学肥料の使用量を低減した～”では、整合性が取れていない。	2	P74では除草剤をいっており、P82では農薬・肥料をいっているものである。化学合成農薬・化学肥料をまったく使用しないというのは無理がある。	74	農林水産部
(3) 豊かな水と共生するまちづくり	10	P75(4)にもあるが、“自然共生空間”の表現がわからない。自然での共生は競争の中でのもの。	1	「自然共生空間」を「自然と人間とが共生する空間」に修正する。	75	環境部	
	11	自然とは“緑”“水辺”“大地”が基本である。この分類で表記したらどうか。	2	“大地”には、生産の場としての「農用地」の“緑”を含めていることから、はっきりとは分類できない。	75	企画部	
(4) 豊かな自然の保全と育成	12	里山の構成要素は、森林だけではなく、生物的多様性を非常に含んでいることから、この生物的多様性を保全するという考え方をした方がよい。また、里山は、市民共有の財産であるということは分かるが、所有者は個人のものもあることから、保全・活用の際にはこれを整理しておかなければならない。	3	里山については、所有者の理解を得ながら、保全を図っていく必要があるが、具体策については今後検討したい。	76	農林水産部	
	13	管理の部分にもっと踏み込んで、マネジメントの考えを入れてはどうか。	1	「RDB(レッドデータブック)の作成・活用や野生生物に関する各種調査により、生息状況等を把握し、市民と情報を共有しながら希少動物種の保護や有害鳥獣対策等を適切に実施し、市民とともに野生生物の保全を図って行きます。」に修正。	76	環境部	
2 都市と田園が恵みあう関係	14	3つめ：農業生産の数値が周知されていないのではなく、米以外の農産物が知られていないのではないか。	1	修正する。	77	農林水産部	
	15	4つめ：“農業に関する関心が低下することで、食習慣の乱れが助長されています。”は、言い過ぎではないか。	1	修正する。	77	農林水産部	
	16	4つめ：農業に関する関心を高めるために、また、人材育成のためにも小学校からの農業教育が必要であると思うがどこかに記載するか。本市には、農業高校がない。	3	市として何ができるか検討する。	77	農林水産部	
3 田園型政令市を際立たせる食と花	(2) 安心・安全・おいしい農産物	17	有機農業や環境保全型農業を進めていくためには、上越市のように目標値を定めてはどうか。	2	新潟市農業構想に記載してある。	82	農林水産部
		18	後継者問題や人材育成のために、農業教育のほかに、いかにして経済的に農業収益を上げられるかが問題となる。収益性が上がれば魅力も増す。小規模農家の収益性を上げるためには、観光農園や直売所の視点が必要。	2	高収益については、P83(3)に記載。その中でも、水田農業が一番重要であると考え。直売所については、P84(3) 販売経路の多様化に記載。	83	農林水産部
	(3) 収益性の高い農業の確立	19	担い手の育成として、専業農家、兼業農家どちらに重点を置いて育成するのか、方針はあるのか。	3	専業農家を中心とした経営体、組織を本市の担い手の主体として重点的な支援が必要と考えるが、それをサポートするものとしての兼業農家も大事なものと考えている。	84	農林水産部
		20	農家と農業に興味のある企業・個人を繋ぐ仕組みづくりが必要。農業をやりたいと考えている人がどこへ相談してよいかわからない。	2	(1)都市と田園のふれあい 農業・農村をサポートする仕組みづくりの中で「(仮称)農業・農村コーディネーターセンター」の活用を記載してある。	84	農林水産部
	(4) 農業の新たな可能性を拓く	21	川上・川下のコラボが必要である。	2	具体的には実施計画で。他産業との連携については、P84 及びP85 に記載。	84	農林水産部
		22	農産物の輸出については、世界の潮流を認識した上で、相手国の理解を得られることが大事である。	3	委員の指摘を踏まえて、事業を実施する。	85	農林水産部
	4 市民と築く環境先進都市	(1) 地球環境に貢献する	23	技術協力も進んでいることから、“国際協調”ではなく“国際協力”ではないか	1	“国際協力の推進”に修正。	89
24			ごみの分別が6から12になるなか、未来を担う若者、特に大学生に分別をしないなどの不法投棄が問題となっている。	2	具体的な施策については実施計画で検討予定。	90	環境部
(3) 廃棄物の減量・リサイクルの推進		25	雨水や浄化処理水などの水のリサイクルの記載が必要である。	2	雨水については、P132 (4) 浸水対策の推進に記載。下水浄化処理水のリサイクルについては、新総合計画の期間内では実施予定はありません。	91	下水道部
		26	東港や西港周辺において、工業地域ということで、リサイクル施設や産業廃棄物処理という名目の施設が立地しているが、都市計画と環境の両部門でもう少しちゃんと考えておいてもらいたい。	2	産廃については、育成と規制強化が必要。そのため、平成17年度に市独自条例を制定。	91	環境部